

2020 年度後学期 学生による授業評価アンケート総評

2021 年 2 月

浦安キャンパス

ファカルティ・ディベロプメント委員会

本総評は、2020 年度（令和 2 年）後学期に 2 回実施した浦安キャンパスにおける「学生による授業評価アンケート実施結果」について、各学部学科及び教育センターによる集計結果分析に基づき、全体の傾向と特徴、明らかになった課題及び今後の授業改善に向けた方策についてまとめたものである。

1. アンケート実施結果の概要

- (1) 実施期間 1 回目：2020 年 9 月 28 日（月）～10 月 3 日（土）  
2 回目：2020 年 12 月 9 日（水）～12 月 15 日（火）
- (2) 実施対象 全教員，617 科目  
ただしゼミ科目，履修者 5 名以下の授業科目，および再履修者のみが履修する授業科目は除く。また同一名称の授業科目を 1 名の教員が複数担当している場合は，履修者最多の授業科目をアンケート評価の対象としている。
- (3) 調査方法 Web 入力方式（スマートフォンやパソコンを使って遠隔で実施）
- (4) 評価方法 5 段階評価（5. 満足，4. やや満足，3. どちらともいえない，2. やや不満，1. 不満）
- (5) 質問項目 授業について 8 項目，その他（2020 年度前学期と同一）  
下記の通り遠隔授業に対応した質問項目とした  
質問 1. 平均授業外学習時間  
質問 2. 配布物は読みやすかったですか  
質問 3. 課題の量はあなたにとって適切でしたか  
質問 4. 授業の内容を自分なりに理解できましたか  
質問 5. 教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか  
質問 6. 教員の学生への対応（質問等）は適切でしたか  
質問 7. この授業で興味や関心が深まりましたか  
質問 8. この授業に対するあなたの満足度をお答えください
- (6) 回答率：第 1 回 28.5% 第 2 回 18.7%

	日本語	英米語	中国語	GSM	経済	不動産	HT	口腔保	基礎	人間力	キャリア	特別	複言語	教職
第 1 回	32.0	24.5	50.6	27.6	24.8	25.6	24.6	55.8	41.9	32.1	29.3	42.1	47.3	26.4
第 2 回	22.2	15.1	35.3	16.6	17.9	17.3	16.1	29.6	27.9	19.8	20.8	33.1	25.5	14.7

注. GSM = 外国語学部 GS 関連科目，人間力 = 人間力形成教育，キャリア = キャリア形成教育，複言語 = 複言語・複文化教育，基礎 = 基礎教育の略である。

## 2. 集計結果と分析

表1と表2は各質問項目に対する評価の平均値を学科別（科目区分別）に集計したものである。各項目における平均値は全ての学科において4.0（やや満足）を超えており、多くの学生が高い水準で授業に満足していたといえる。前学期は4.0の水準を下回る傾向にあった「課題の量はあなたにとって適切でしたか」「授業の内容を自分なりに理解できましたか」についても、全ての学科において大幅に改善が見られた。前学期に引き続き、「配布物は読みやすかったですか」や「教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか」および「教員の学生への対応（質問等）は適切でしたか」に対する評価は概ね高く、各教員が創意工夫して遠隔授業に臨んだ成果が後学期にも表れていたと言える。平均の授業外学習時間で、2020年度の到達目標である45分を前学期に達成していた学科が、この水準に届かないケースが見られた。しかしながら、依然として授業外学習時間の長さは高い水準にある。例年と比較して高い水準となったこの結果は、遠隔授業（あるいは反転授業）と対面授業のハイブリッド方式を取り入れた利点の1つであると推察される。

表1 後学期第1回授業評価アンケートの実施結果（平均値・学科別）

設問文	基礎	人間力	キャリア	特別科目	GSM
平均授業外学習時間	32.07	41.53	51.04	84.18	49.83
配布物は読みやすかったですか	4.31	4.32	4.38	4.57	4.59
課題の量はあなたにとって適切でしたか	4.06	4.26	4.06	4.47	4.51
授業の内容を自分なりに理解できましたか	4.17	4.19	4.25	4.53	4.47
教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか	4.34	4.37	4.40	4.59	4.59
教員の学生への対応（質問等）は適切でしたか	4.30	4.23	4.35	4.59	4.51
この授業で興味や関心が深まりましたか	4.02	4.25	4.23	4.37	4.42
この授業に対するあなたの満足度をお答えください。	4.13	4.29	4.22	4.55	4.49

表1 後学期第1回授業評価アンケートの実施結果（平均値・学科別）続き

設問文	日本語	英米語	中国語	経済	不動産	HT	口腔保	教職	複言語
平均授業外学習時間	43.63	42.15	50.13	48.53	41.97	41.46	27.50	31.17	43.63
配布物は読みやすかったですか	4.61	4.40	4.47	4.27	4.30	4.36	4.48	4.50	4.32
課題の量はあなたにとって適切でしたか	4.53	4.41	4.49	4.24	4.21	4.26	4.51	4.31	4.32
授業の内容を自分なりに理解できましたか	4.49	4.31	4.39	4.09	4.20	4.28	4.29	4.40	4.14
教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか	4.59	4.39	4.52	4.23	4.35	4.49	4.47	4.59	4.26
教員の学生への対応（質問等）は適切でしたか	4.58	4.33	4.45	4.20	4.28	4.39	4.39	4.58	4.25
この授業で興味や関心が深まりましたか	4.41	4.29	4.45	4.12	4.25	4.33	4.34	4.49	4.06
この授業に対するあなたの満足度をお答えください。	4.51	4.36	4.44	4.21	4.28	4.33	4.35	4.50	4.16

表2 後学期第2回授業評価アンケートの実施結果（平均値・学科別）

設問文	基礎	人間力	キャリア	特別科目	GSM
平均授業外学習時間	46.00	44.80	56.10	63.80	56.87
配布物は読みやすかったですか	4.14	4.42	4.30	4.60	4.47
課題の量はあなたにとって適切でしたか	3.78	4.35	3.96	4.38	4.52
授業の内容を自分なりに理解できましたか	4.01	4.24	4.18	4.53	4.36
教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか	4.22	4.38	4.36	4.50	4.46
教員の学生への対応（質問等）は適切でしたか	4.18	4.25	4.26	4.55	4.46
この授業で興味や関心が深まりましたか	3.86	4.27	4.15	4.48	4.39
この授業に対するあなたの満足度をお答えください。	3.98	4.29	4.18	4.46	4.43

表2 後学期第2回授業評価アンケートの実施結果（平均値・学科別） 続き

設問文	日本語	英米語	中国語	経済	不動産	HT	口腔保	教職	複言語
平均授業外学習時間	53.99	49.95	45.70	58.00	54.20	49.70	44.80	37.40	39.90
配布物は読みやすかったですか	4.52	4.35	4.49	4.28	4.19	4.48	4.39	4.46	4.32
課題の量はあなたにとって適切でしたか	4.43	4.37	4.47	4.28	4.12	4.41	4.42	4.46	4.40
授業の内容を自分なりに理解できましたか	4.47	4.27	4.37	4.11	4.08	4.39	4.17	4.37	4.21
教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか	4.59	4.32	4.53	4.26	4.23	4.55	4.37	4.54	4.29
教員の学生への対応（質問等）は適切でしたか	4.51	4.30	4.48	4.26	4.20	4.50	4.32	4.47	4.32
この授業で興味や関心が深まりましたか	4.46	4.26	4.39	4.14	4.11	4.38	4.28	4.32	4.32
この授業に対するあなたの満足度をお答えください。	4.51	4.34	4.47	4.22	4.16	4.43	4.27	4.54	4.31

後学期1回目の授業評価アンケートから第2回目にかけて大きく改善したのは「平均授業外学習時間」である。すべての学科（科目区分別）で、授業外に学習する時間が向上していた。これは後学期の授業後半になるにつれて学習内容が高度化したことに加え、第1回目の授業評価アンケートの結果を受けて、各学科が何かしらの取り組みを行ったからだと考えられる。なお、その他の項目についても大きく評価が下がったものはなく、安定した授業運営が行われていた結果によると言える。

図1は、「この授業に対するあなたの満足度をお答えください」という質問項目に対する評価の高低を決定する条件を示している。条件を分岐させる要因としては、すべての質問項目に加え、性別、所属学科、学年、必修/選択の別、欠席回数、積極性を投入した。なお、決定木の作成に当たっては後学期1回目の授業評価アンケートのデータを使用している。

決定木分析の結果、最大の要因は「この授業で興味や関心が深まりましたか（興味関心：ノード1）」であり、評定平均値 3.5 が分岐点となった。例えば興味関心が 3.5 以下かつ熱

意（ノード2）の評定平均値も 2.5 以下の場合、満足度の中央値は最低の 2.0（やや不満）となっている。ただし、興味関心が低くても、熱意が一定より高く（2.5 以上）、かつ学生対応が適切な場合（3.5 以上）には満足度が向上することもわかった。

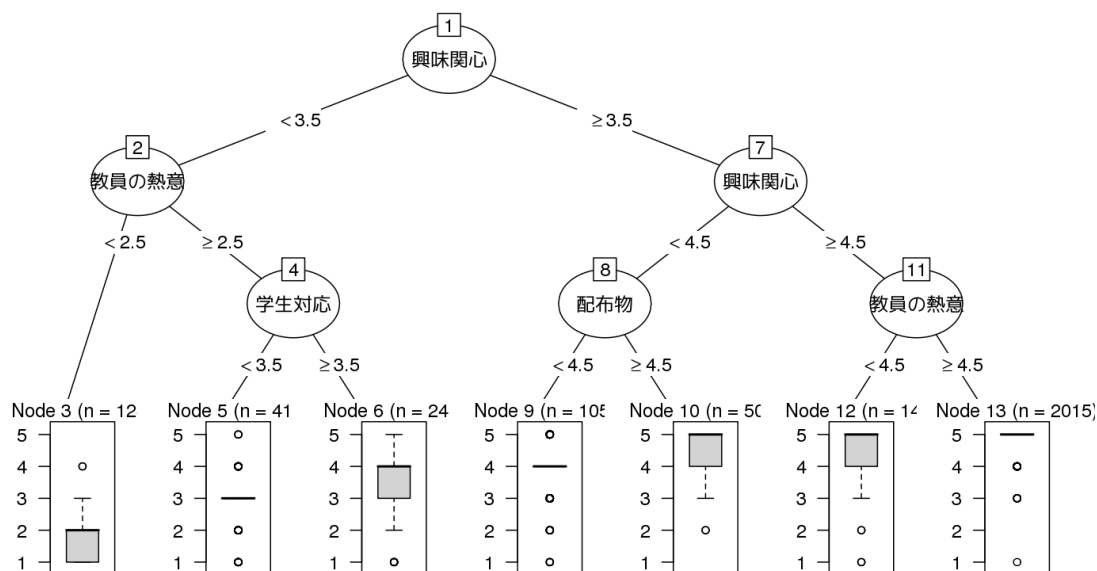


図1 「授業に対する満足度」を予測する要因の決定木

続いて、興味関心が 4.5 より高い場合、「教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか（熱意：ノード 11）」に対する評定値が授業満足度に関わっていた。特に熱意を強く感じられる授業（4.5 以上）であれば、満足度の中央値が最大の 5 となっている。ここまで高い興味関心を引くことができなくても、「配布物は読みやすかったですか」に対する評価が高い場合には、より高い満足度を得ることができている。いずれにせよ、興味関心の評定平均値 3.5 を超えることが肝要であり、その場合には多くの学生が授業に対して満足していることがわかった。

図1のモデルに含まれなかった要因（たとえば理解度や課題の量、授業外学習時間）が重要でないというわけではないことに注意したい。これらの要因は授業の質を決めるものであり、興味関心や熱意へと表れていると考えられる。なお、後学期2回目の授業評価アンケートのデータを使用しても、ここまで述べた傾向に違いは見られなかった。

### 3. 明らかになった課題

授業評価アンケート実施の集計結果と分析に基づき、明らかになった主な課題は、以下の通りにまとめられる。

#### (1) 遠隔授業の特性を考慮した授業運営の効果

今回のアンケート結果によると、2020 年度前学期の総評と比較して、多くの質問項目で

評定平均値が上昇しており、全ての質問項目で評定平均値は 4.0 を上回った。これは、前学期の課題であった、課題の量の適切さや授業の理解度といった項目が改善したものであり、各教員が遠隔授業の特性を考慮した授業運営を心がけた結果と思われる。

## (2) (遠隔) 授業における満足度を向上させる要因の把握

今後も社会情勢によっては一部の授業が遠隔で実施される可能性を踏まえ、学生が遠隔授業に何を求めているかを理解することは引き続き重要となる。決定木分析の結果は遠隔・対面を問わず、満足度に影響を与える要因を抽出している。具体的には、何よりもまず学生の興味関心を引く授業づくりが求められる。それらは教員の熱意であったり、学生対応や課題、配布物といった授業の質を決める行為に現れると学生は捉えているようである。全履修者のうち約 1,200 件で授業満足度が 3.0 以下であったことを考慮すると、授業づくりの基本に立ち返る必要があるといえる。

## 4. 今後の授業改善に向けた方策

上記の課題に対し、授業の内容と方法についてさらなる改善を目指す必要がある。今回のアンケートでは学生の授業外学習時間が大きく改善したことが示されていることから、遠隔授業（あるいは反転授業）の利点を取り入れた授業運営が今後求められるようになるだろう。学生の学びに対し常にフィードバックを与えることで、理解度や内容に関する興味関心、ひいては授業の満足度を向上させることができるだろう。対面授業時と同じく、継続して授業改善の工夫をすること（適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される、授業時間外に教員から個別指導や助言を受けるオフィスアワーの活用など）が重要である。

授業内容・方法の改善に向けては、多くの教員（各学部長・学科主任のリーダーシップのもと、科目コーディネーター・教務委員・FD 委員など）が協働し、継続して努力する必要がある。そのような取り組みを非常勤講師にも伝達するため、学期が終わった時点での振り返りを通じて、授業評価の結果を積極的に情報共有し、成績評価の結果も勘案しつつ、シラバスや授業の方法などを見直し、次の学期に向けて必要な授業改善に取り組むことが肝要である。Zoom や Teams を使った遠隔会議がスタンダードとなる中、非常勤講師と専任教員の授業方針・運営の意見交換の場を継続して設けるなど、教員間の積極的なコミュニケーションが必要である。これは、遠隔授業によって、学生だけでなく教員も情報交換などのやり取りをする機会が減少している今、考慮すべき事項の 1 つであるといえる。